

2017/07/25 09/09 11/28 11/30 12/04 12/05

2017 度 A2 ターム 東京大学大学院工学系研究科都市持続再生学コース（まちづくり） syllabus
都市社会論（都市経営基礎第4）

担当 似田貝 香門
祐成 保志

開講日 2017 年 12 月 02 日～2018 年 02 月 03 日

金曜日 金曜 6 限（18:40-20:05）・7 限（20:10-21:35）（85分×2）

工学部 14 号館 141 講義室（1 階）

《講義の目的》

担当者は何れも、都市社会学、地域社会学を専門にしている。特定の状況下に構想、実践される、〈まちづくり〉という地域社会の一定の範囲の特異な共同実践を、社会的に考察、分析する方法を論じる。そしてそこから、建築系、都市計画系の専門領域への相補的なメッセージを受講者との相互的対話によって生み出すことを企図としたい。

数年の経験に鑑み、今年度から、講義者と受講生との双方向的なコミュニケーションを図り、テーマとそこでの課題や論点を共有するため、大きなテーマ終了後の次の回に、〈中間的考察〉という時間を設定する。

I. 都市社会論への誘い

〈まちづくり〉という市民・住民活動を基盤として、都市計画法等やそれを運用する行政、専門家を含む他の関係人々を巻き込む特異な集合行動を、主として社会的視点から、論ずるためのテーマ、概念・用語等について概観する。

12 月 01 日①② 都市社会論への誘い

今年度のすすめ方、インストラクション

似田貝香門 〈まちづくり〉論へ向けた社会的プロローグ I

祐成 保志 〈まちづくり〉論へ向けた社会的プロローグ I

各 60 分程度 後半課題テーマの討論

II. 〈まちづくり〉論

《倉敷の保存運動（1948）から、60年代の公害反対運動、今日の都市景観形成や阪神・淡路大震災、東日本大震災以降の〈まちづくり〉のNPO活動に至るまでの、法的展開や、運動・活動によって形成された特異な論理などを、〈まちづくり〉の史的概括表を共通の素材として扱いながら論ずる》。

12 月 08 日③④ まちづくり論 I ; 歴史と活動

似田貝香門 歴史的な「まち」並保全運動から景観運動へ

林 泰義 まちづくり誕生の契機と歴史的展開を今日の視点から考える

各 60 分 後半課題テーマの討論

12 月 15 日⑤⑥ まちづくり論 II ; 運動

似田貝香門 1970年代のまちづくりの画期；住民運動と〈まちづくり〉運動

三浦 倫平 都市社会運動の現代的位相——下北沢再開発反対運動を事例

各 60 分 後半課題テーマの討論

III. 都市景観とコミュニティ・ガバナンス

日本の景観(1)の整備は遅れていると言われている。無秩序に乱立するビル、そこかしこで視線を遮る電線や電柱、郊外へスプロールする無国籍のデザインの住宅の群れ、雑然と立ち並ぶ看板や標識、海岸を埋め尽くすテトラポット。都市景観の荒廃は、間違いなく進行して行った。都市人口の急速な増加とモータリゼーションの進展が、従来の市街地を越えて新しい市街地を生み出していった。丘陵部の林地の造成、農地の宅地転用、海岸の埋め立て等によって、郊外への市街地の無秩序なスプロール化が進む一方、人の流れが都市中心部から郊外へと変化して、都市中心の商業地の求心力が低下する、いわゆる中心市街地の空洞化現象が各地で進行した。頻発する景観を巡る

住民運動と景観裁判。このような中で、まちづくりと景観を巡る、地域の景観ガバナンスと法理や社会規範の動きを論ずる。

12月22日⑦⑧

似田貝香門 住民運動と景観を巡る地域ガバナンス

国立市大学通り景観・鞆の浦（広島県福山市）埋め立て・架橋計画問題をケースに

似田貝香門 景観をめぐる社会規範と法規範

各 60分 後半課題テーマの討論

IV. 居住空間としての都市

まちの「中」に住宅がある、というのが常識的な見方である。しかし、住宅の外にまちが広がるように、まちの「外」に住宅があるとも考えることもできる。すなわち、住宅は都市社会に亀裂と分断を持ち込みやすい性質をもっている。他方で、居住（住む・住まうこと）は、身体的な実践を通じて断片的な諸資源を構造化する。住宅は社会に分断をもたらすだけでなく、分断を修復するための「結び目」にもなりうる。こうした両義性を抱えた住宅に焦点をあてて、都市社会の特質を分析する。

2018年

01月05日⑨⑩

似田貝香門 戦後都市定住と居住空間—住宅計画と都市再生

祐成 保志 住宅とコミュニティの矛盾

各 60分 後半課題テーマの討論

V. 都市空間と市民事業のコモンズ的实践

〈まちづくり〉の運動・活動において、公共施設、公共管理地、私的所有地等をコモンズ化することが時に必要。伝統的概念たる「コモンズ」を現代化する意義とその戦略を論ずる。《同意・合意、「事前復興」、ダブルバインド、街並み誘導型地区計画、「自生的秩序」、「プログラム実践」、法の初源に遡る行為、「まちづくり協定」、「まちなみ協定」等の〈まちづくり〉制度と活動・運動の緊張・対立・共存・並立などのダイナミックな過程を社会的に論ずる》。〈まちづくり〉のプログラム実践とその物的基盤（現代コモンズ）。

01月19日⑪⑫

似田貝香門 市民事業とコモンズ 市民基金とその運営

似田貝香門 支援経済からコミュニティ集合経済へ

—レスキュー・復旧段階の支援から復興段階の支援の狭間で

各 60分 後半課題テーマの討論

VI. 震災復興と地域づくり

01月26日⑬⑭

似田貝香門 災害からの再生；

—住宅自力再建・公的供給を介して、地域に〈住む〉ことの意味の再考

祐成 保志 住宅供給から居住支援へ

各 60分 後半課題テーマの討論

VII. 受講者報告と全員の討議

02月02日⑮⑯

受講者報告（報告者 各 10分）

討議者及び総括；祐成保志、似田貝香門